

第3章 出火原因別火災状況

1 放火

- 令和2年から出火原因の第1位でしたが、たばこに次いで第2位となっています。
- 夜間は全火災件数に占める放火火災の割合が高くなっています。

抽出条件：経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火*」、「921 放火の疑い*」

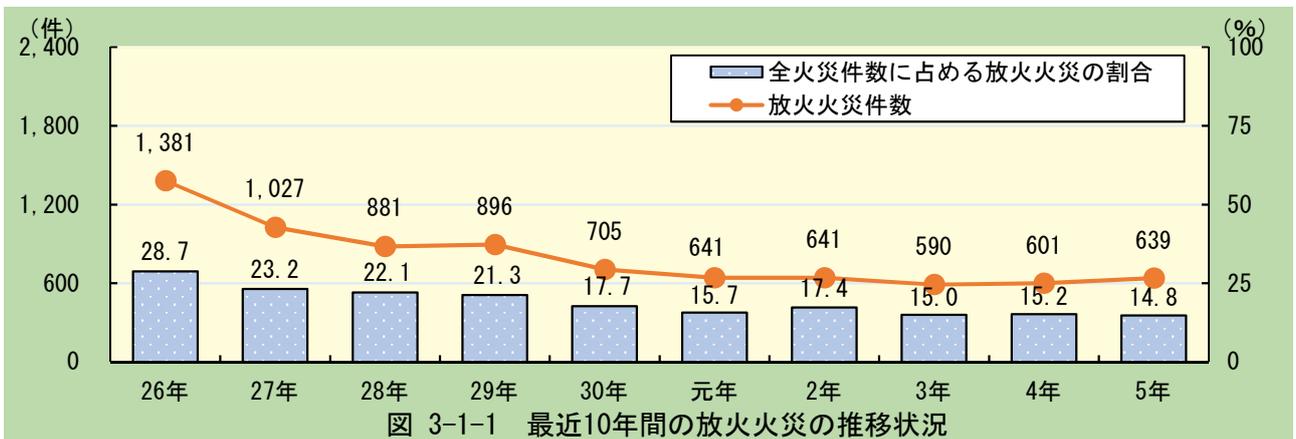
(1) 火災状況

ここでとりあげる「放火」とは、放火の疑い及び無意識放火を含んだ火災をいいます。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-1-1、最近10年間の火災の推移状況をみたものが図3-1-1です。

表 3-1-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火災の種類										損害状況				
	合計	建物					林野	車両	船舶	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや									
26年	1,381	510	15	10	77	408	1	62	-	808	3,697	1,585	529,165	19	69
27年	1,027	382	8	8	58	308	1	54	-	590	2,036	1,388	556,067	18	60
28年	881	384	14	14	47	309	-	39	2	456	3,501	732	328,668	24	73
29年	896	351	7	7	49	288	3	31	-	511	1,608	1,003	275,259	14	57
30年	705	276	7	3	46	220	-	17	-	412	1,178	755	171,864	14	60
元年	641	255	14	6	39	196	1	12	-	373	1,937	532	525,967	26	67
2年	641	270	6	8	38	218	-	21	-	350	995	607	380,516	19	58
3年	590	213	6	2	33	172	1	12	-	364	1,290	270	260,091	17	27
4年	601	207	8	8	37	154	2	11	-	381	1,141	570	220,907	24	55
5年	639	195	11	11	32	141	2	12	-	430	1,775	593	333,537	22	33



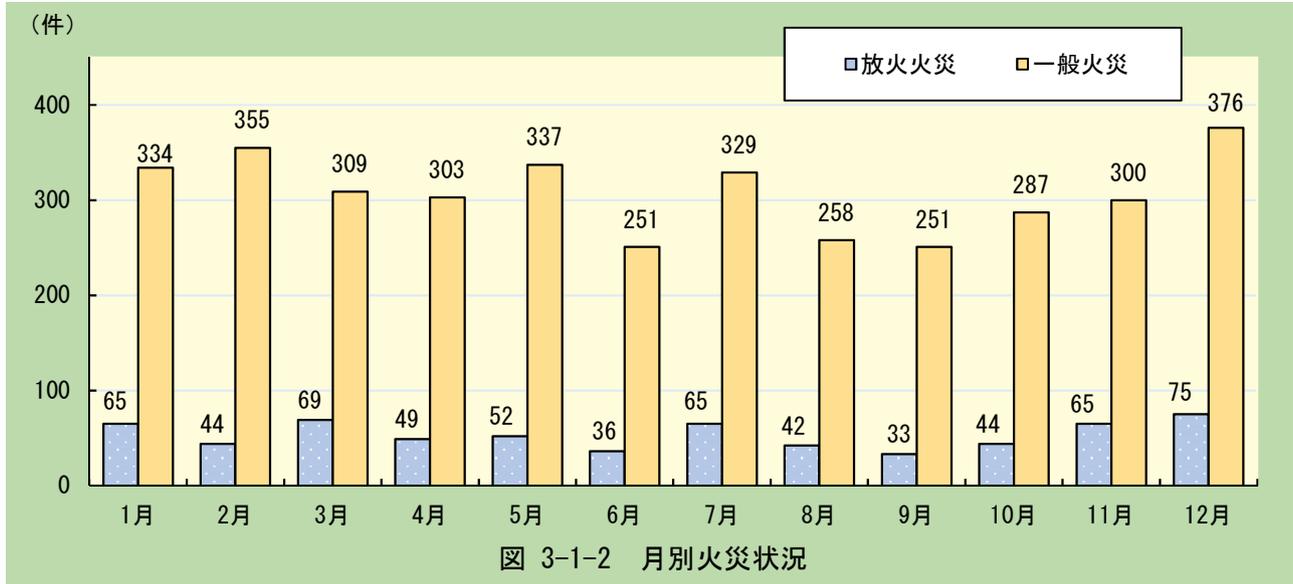
注 全火災件数は治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。以下同じ。

(2) 放火火災の傾向

ア 月別と時間別の発生状況

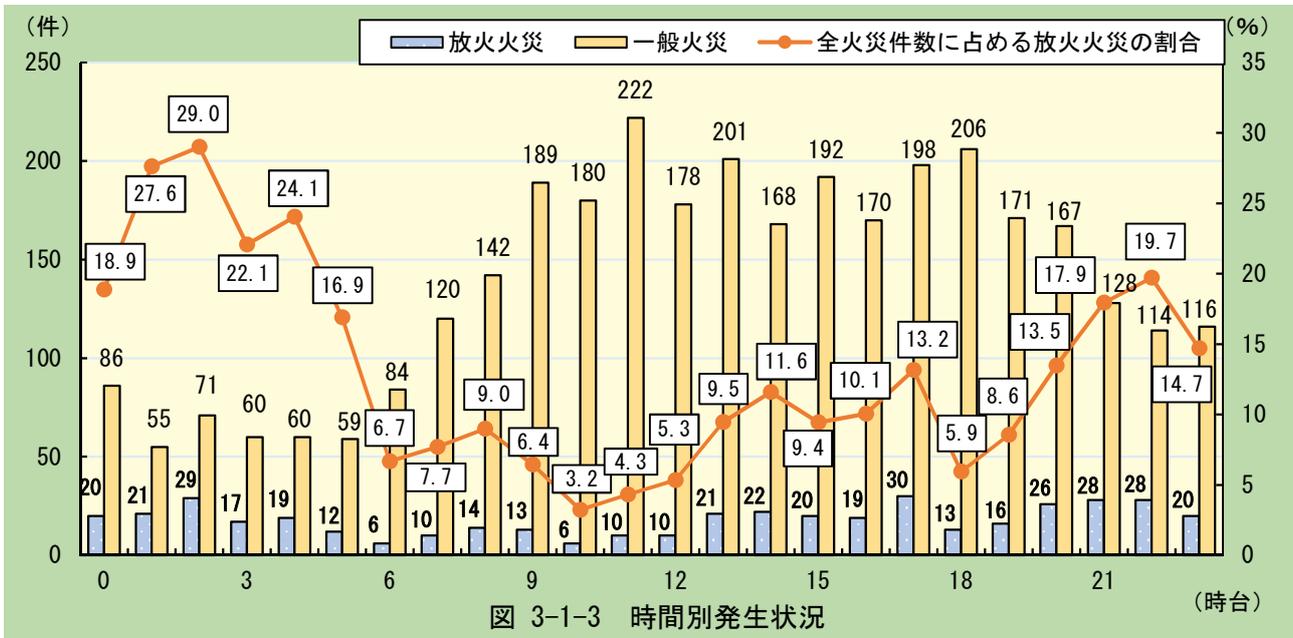
(7) 月別発生状況

放火と放火以外の火災(以下「一般火災」という。)の月別発生状況をみたものが図 3-1-2 です。



(4) 時間別発生状況

全火災件数のうち出火時間が不明の 562 件を除いた 3,767 件の火災について、放火火災と一般火災の時間別発生状況をみたものが図 3-1-3 です。



- 放火火災は月別では12月に75件発生し、最も多い。
- 一般火災は日中に多いのに対し、放火火災は夜間から深夜の時間帯に多く発生。

イ 放火場所（出火箇所）と着火物

放火された場所（出火箇所）を建物関係（主として建物の箇所）、建物関係以外（主として建物以外の箇所）に分けてその着火物をみたものが表 3-1-2 です。

表 3-1-2 着火物別放火場所（出火箇所）

放 火 場 所 (出 火 箇 所)		合 計	ご み く ず	枯 草 ・ 落 葉 ・ 立 木 ・ 芝 草	紙 ・ 紙 製 品	合 成 樹 脂 ・ 合 成 樹 脂 製 品	織 維 類	く ず 類	木 質 類	原 木 ・ 廃 材 等	引 火 物 類	車 両 関 係	可 燃 性 固 体	家 具	そ の 他	不 明	
合 計		639	156	135	99	62	59	29	23	19	9	6	5	3	8	26	
建物関係 (主として建物箇所)	小 計	187	35	2	46	19	34	6	1	-	8	-	4	1	7	24	
	共用部分	69	15	1	25	6	6	4	-	-	1	-	3	-	4	4	
	居住関係	62	10	-	10	1	21	-	-	-	5	-	1	-	1	13	
	倉庫・物置	11	2	-	2	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	4	
	ベランダ・屋上等	10	1	-	3	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
	建物の外周部	10	3	-	-	4	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	施設管理・休憩室等	6	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
	機械室・設備関係等	5	-	-	1	1	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	
	車庫・駐車場	4	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
	工事中建物	3	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	店舗・客室関係	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
上記以外	5	1	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
建物関係以外 (主として建物以外の箇所)	小 計	452	121	133	53	43	25	23	22	19	1	6	1	2	1	2	
	車 両	7	-	-	-	1	-	-	1	-	1	3	-	-	-	1	
	の	そ 公園・墓地	159	40	53	20	12	6	10	11	5	-	-	1	-	1	-
		敷 地 内	138	34	33	17	18	9	10	5	8	-	2	-	1	-	1
		道路・地下通路	68	26	18	4	8	4	2	4	2	-	-	-	-	-	-
		河 川 敷	35	8	20	3	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
		屋外ごみ捨場	14	8	-	-	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
		工 作 物 等	9	1	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		空 地	7	1	2	1	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-
		屋外駐車場	6	2	-	-	-	2	-	1	-	-	1	-	-	-	-
他	田 畑	6	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	上記以外	3	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

- 放火された場所は、建物関係では「共用部分」69件で最多。次いで居住関係で62件発生。
- 着火物別でみると、「ごみくず」、「枯草・落葉・立木・芝草」で4割以上（45.5%）を占める。

ウ 用途別状況

放火火災のうち、建物から出火した火災 177 件の用途別発生状況をみたものが表 3-1-3 です。

表 3-1-3 火元建物用途別発生状況

火元の用途 (合計 177 件)														
居住系			事業系								居住・事業系以外			
共同住宅等	住宅	複合用途の住宅部分	事務所	学校	駐車場	百貨店・物販等	ホテル	福祉施設等	倉庫	その他	共用部分	付属建物等	空家	建工事中の物の
67	28	5	25	3	3	2	2	2	2	3	23	7	3	2

(3) 地域別放火火災の発生状況

特別区と受託地区に分けて上位 10 区市をみたものが表 3-1-4 です。放火による出火率とは人口 1 万人当たりの放火件数をいいます。

表 3-1-4 地域別放火火災発生状況

特別区	件数	放火による出火率	受託地区	件数	放火による出火率
足立区	53	0.8	町田市	50	1.2
江戸川区	31	0.5	八王子市	41	0.7
板橋区	24	0.4	青梅市	25	2.1
大田区	24	0.3	府中市	20	0.8
葛飾区	21	0.5	東久留米市	18	1.6
世田谷区	19	0.2	立川市	12	0.7
荒川区	19	0.9	あきる野市	12	1.7
練馬区	18	0.2	武蔵野市	8	0.6
豊島区	17	0.6	小平市	8	0.8
台東区	15	0.7	三鷹市	7	0.4

(4) 連続放火火災の発生状況

表 3-1-5 主な連続放火火災の発生状況

月	管内	主な出火場所	焼損物	件数
7月	府中	(府中市) 武蔵台	枯草・木製品・合成樹脂等	9
7月	府中	(府中市) 武蔵台	落葉・枯草・ポスター等	5
8月	池袋	(豊島区) 長崎	繊維製品・紙製品・合成樹脂等	7
10月	町田	(町田市) 本町田	ごみくず等	5
11月	町田	(町田市) 三輪町	新聞紙・ちらし等	5
12月	青梅	(青梅市) 長淵	枯草等	9

注 本表は、同一日とその翌日までの間で、同一地域に 5 件以上発生した放火火災を集計したものです。

- 放火の対象となった建物用途は、居住系では「共同住宅等」が最も多く発生。
- 特別区では足立区、受託地区では町田市で放火火災が多く発生。
- 府中市では 7 月に連続放火火災が計 14 件発生。

2 たばこ

- 令和元年以来、4年ぶりに出火原因第1位となっています。
- 火災件数は661件で、前年に比べ92件（16.1%）増加。
- 建物から出火した火災の約8割を居住関係用途が占める。

抽出条件：発火源分類コード 「42101 たばこ」
 経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く

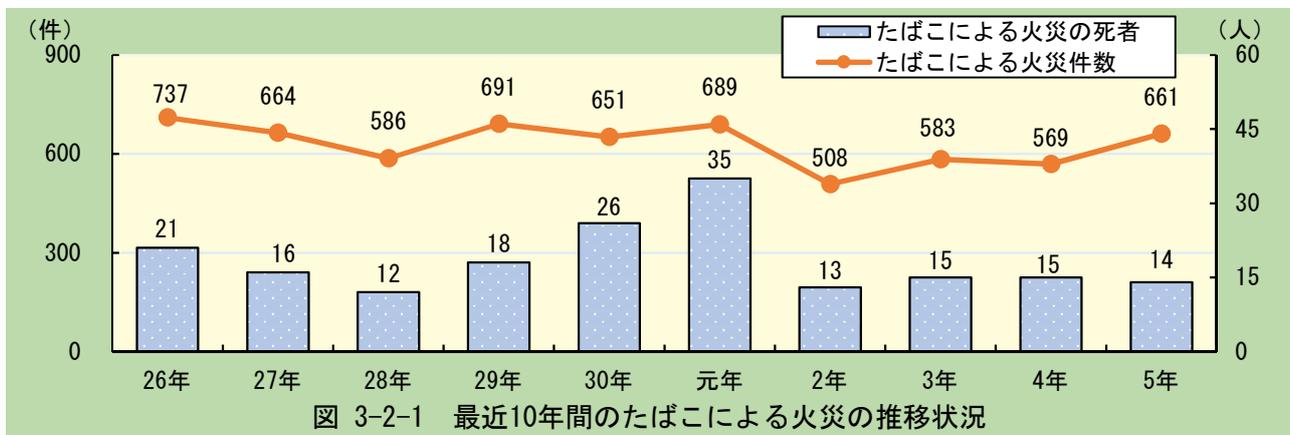
(1) 火災状況

ここでとりあげるたばこによる火災とは、発火源がたばこで、放火及び火遊びによる火災を除いたものです。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-2-1、最近10年間の火災の推移状況をみたものが図3-2-1です

表 3-2-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	火災の種類										損害状況				
	合計	建物					林野	車両	船舶	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや									
26年	710	415	7	16	111	281	-	20	-	275	2,105	1,158	485,068	21	98
27年	664	372	6	17	100	249	-	13	-	279	1,913	838	356,287	16	65
28年	586	354	4	9	88	253	-	17	-	215	1,698	566	328,463	12	92
29年	691	370	4	11	99	256	-	10	-	311	1,622	1,037	462,962	18	88
30年	651	366	4	15	104	243	-	13	-	272	2,391	1,188	529,065	26	92
元年	689	374	5	14	101	254	1	19	-	295	1,757	797	536,156	35	77
2年	508	291	5	10	75	201	-	10	-	207	1,508	717	271,376	13	65
3年	583	312	7	7	81	217	-	12	-	259	1,901	712	424,642	15	94
4年	569	324	11	11	94	208	-	7	-	238	2,474	1,000	664,874	15	74
5年	661	331	8	6	80	237	-	21	-	309	1,991	994	485,248	14	81



- たばこによる火災件数は、前年に比べ92件（16.1%）増加しており、最近10年間は概ね横ばいで推移。
- たばこによる火災の死者は、前年と比べ1人減少。

(2) 建物からの発生状況

ア 時間別発生状況

たばこによる火災 661 件のうち、建物から出火した火災は 299 件で、このうち出火時分が不明の 19 件を除いた 280 件について時間別発生状況をみたものが図 3-2-2 です。



イ 主な建物用途の出火箇所

建物から出火した火災 299 件について、出火した用途と出火箇所をみたものが表 3-2-2 です。

表 3-2-2 出火した用途別の出火箇所

出火箇所	合計	建物用途									
		居室系	小計	飲食店	事務所等	事業所	物品販売店舗	ホテル	停車場	その他	居住・事業系以外
合計	299	237	40	13	9	4	4	3	2	5	22
居室	126	125	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ベランダ	67	61	3	1	-	2	-	-	-	-	3
キッチン等	29	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-
倉庫・物置・車庫等	18	4	3	-	-	1	1	-	-	1	11
廊下・玄関等	14	8	4	1	1	1	-	-	1	-	2
作業関係	11	-	11	7	2	-	-	-	-	2	-
便所・浴室等	11	7	4	2	-	-	-	1	1	-	-
店舗・客室関係	8	-	6	1	-	-	3	2	-	-	2
建物の部分	5	2	1	-	1	-	-	-	-	-	2
事務室等	4	-	4	-	4	-	-	-	-	-	-
施設管理・休憩室関係	4	1	2	1	1	-	-	-	-	-	1
機械室・設備関係	2	-	2	-	-	-	-	-	-	2	-

注 事務所等は、15 項のうち事務所、官公署、銀行の合計です。

ウ 経過別出火箇所

建物から出火した火災で経過別に出火箇所をみたものが表 3-2-3 です。

表 3-2-3 経過別出火箇所の状況

経過	合計	出火箇所											
		居室	ベランダ	キッチン等	倉庫・物置・車庫等	廊下・玄関等	作業関係	便所・浴室等	店舗客室関係	建物の部分	事務室等	施設管理・休憩室関係	機械室・設備関係
合計	299	126	67	29	18	14	11	11	8	5	4	4	2
不適当な処に捨てる	193	54	50	23	15	13	10	8	7	5	4	3	1
火源が落下する	97	66	16	5	3	1	-	3	1	-	-	1	1
火源が接触する	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
接炎する	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	6	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

エ 経過別の喫煙時の状況

建物から出火した火災 299 件のうち、喫煙時の状況が不明の 52 件を除いた 247 件について経過別に喫煙時の状況をみたものが表 3-2-4 です。

表 3-2-4 経過別の喫煙時の状況

経過	合計	喫煙時の状況													
		休憩中	外出時	就寝時	出勤時	作業中・執務中	起床時	飲酒中	観覧中・鑑賞中	家事従事中	飲食中	遊技中	会議中・談話中	帰宅準備中	その他
合計	247	56	54	27	19	14	14	10	6	4	2	2	1	1	37
不適当な処に捨てる	164	33	44	13	14	11	6	3	5	3	2	1	1	1	27
火源が落下する	78	22	10	14	5	3	7	6	1	1	-	1	-	-	8
火源が接触する	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
接炎する	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1

- 経過別出火箇所の状況では「不適当な処に捨てる」が 193 件（64.5%）と、全体の 6 割以上を占め、その多くは居室及びベランダで発生。
- 喫煙時の状況をみると、「休憩中」が 56 件（22.7%）で最も多く、2 割以上を占める。

オ 出火に至った時間

建物から出火した火災 299 件のうち、出火に至った時間が不明の 65 件を除いた 234 件について時間経過別に着火物をみたものが表 3-2-5 です。

表 3-2-5 出火に至った時間経過と着火物

出火に至るまでの時間	合計	着火物								
		ごみくず	繊維類	紙・紙製品	床材	合成樹脂成型品	合成樹脂	木材・木製品	紙くず	不明・その他
合計	234	140	42	26	6	5	4	4	7	
1 時間未満	165	102	24	19	4	5	2	4	5	
1 時間以上 2 時間未満	39	20	9	6	1	-	1	-	2	
2 時間以上 3 時間未満	16	11	3	-	1	-	1	-	-	
3 時間以上 4 時間未満	7	4	2	1	-	-	-	-	-	
4 時間以上 5 時間未満	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
5 時間以上 6 時間未満	2	-	2	-	-	-	-	-	-	
6 時間以上	4	3	1	-	-	-	-	-	-	

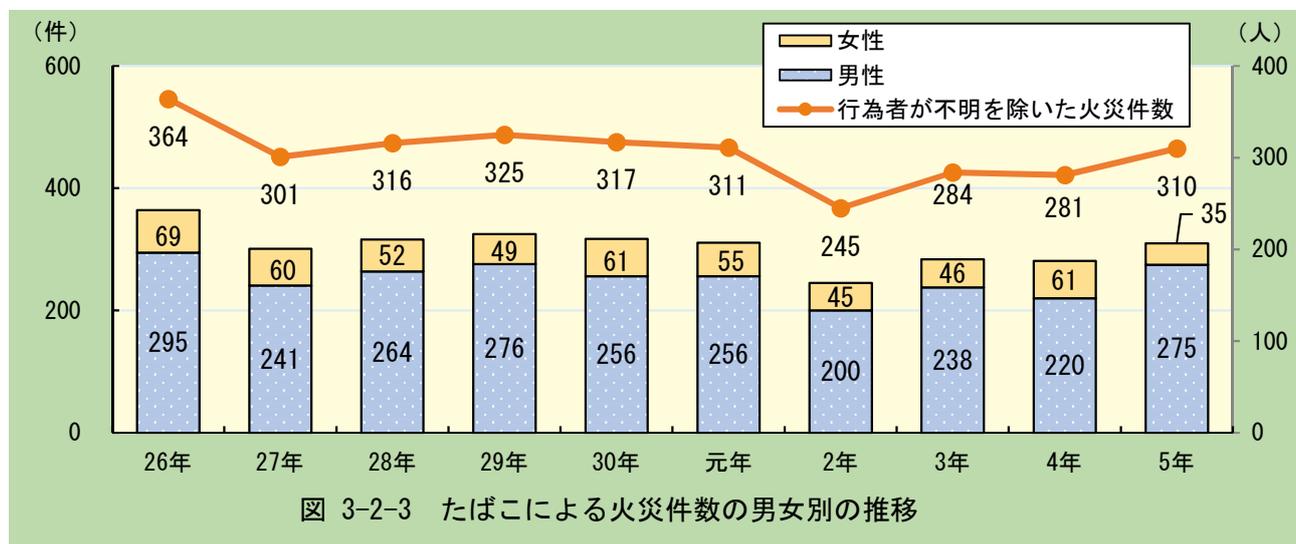
○ 1 時間未満が 165 件 (70.5%) で 7 割以上を占め、そのうち着火物は「ごみくず」が 102 件で最多。

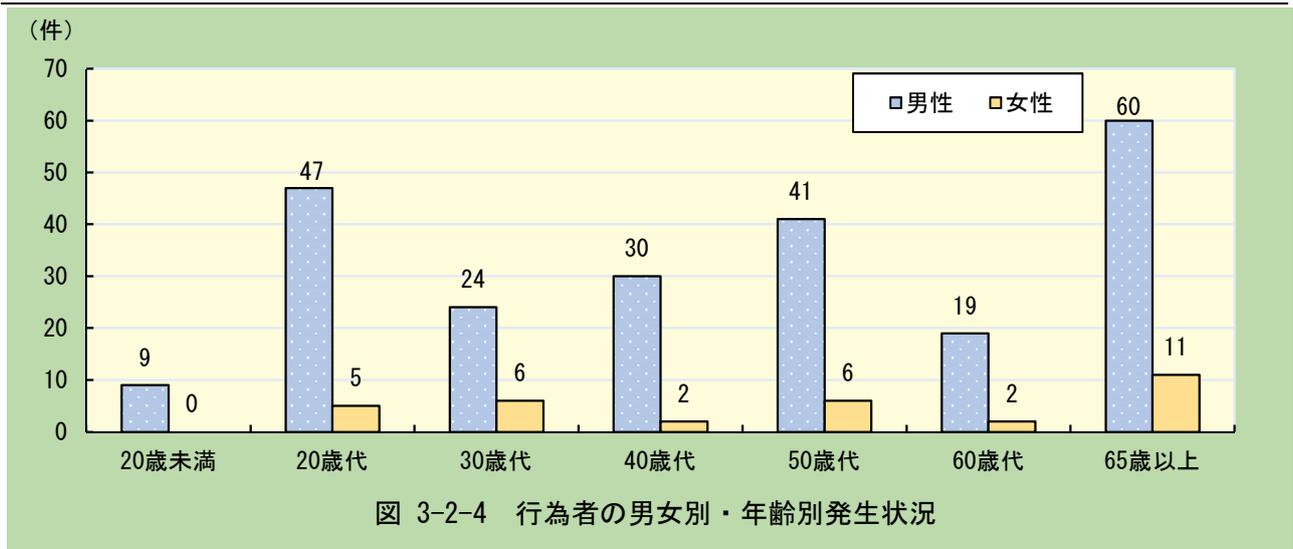
カ 行為者の状況

(7) 行為者の男女別・年齢

たばこによる火災 661 件のうち、行為者が不明の 351 件を除いた 310 件について行為者を男女別で推移をみたものが図 3-2-3 です。

建物から出火した火災 299 件のうち、行為者の男女別及び年齢が判明している火災 262 件の状況をみたものが図 3-2-4 です。





- 行為者の男女別では男性が 230 件（87.8%）で約 9 割を占める。
- 行為者の年齢別では 65 歳以上が 71 件（27.1%）で最多。

(イ) 寝たばこによる状況

「寝たばこ」は、「就寝前若しくは起床時などに寝具類の中または上で喫煙し、たばこにより寝具類に着火して出火した火災」を示しています。

寝たばこの年齢区分別行為時の状況をみたものが表 3-2-6 です。

表 3-2-6 寝たばこの年齢区分別行為時の状態

年齢区分別	合計	行 為 時 の 状 態				死 者	負 傷 者
		正 常	飲 酒	薬 物 服 用	そ の 他		
合 計	8	3	3	1	1	-	2
20歳未満	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	3	2	1	-	-	-	1
50歳代	2	-	2	-	-	-	-
60歳代	1	1	-	-	-	-	-
65歳以上	2	-	-	1	1	-	1

- 寝たばこによる火災は、年齢区分別では「40歳代」が 3 件（37.5%）で約 4 割を占める。

(3) 建物以外の発生状況

建物以外から出火した火災 362 件について出火箇所別に着火物をみたものが表 3-2-7 です。

表 3-2-7 出火箇所別の着火物（建物以外）

出火箇所		合計	着火物								
			ごみくず	立木・落葉・芝草	枯草	木質物	紙・紙製品	繊維類	木切れ・廃材	くず類	樹脂製・合成樹脂製・合成
合計		362	164	87	31	21	19	16	9	6	9
道路・公園等	小計	154	70	56	8	6	6	2	3	3	-
	道路（側溝を含む）	113	57	38	5	6	3	1	1	2	-
	公園	25	9	8	3	-	2	-	2	1	-
	河川敷	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-
	空地	3	-	2	-	-	1	-	-	-	-
	マンション	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	高速道路	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-
	その他	5	2	2	-	-	-	1	-	-	-
固有地（物）	小計	180	82	29	20	11	11	14	4	2	7
	敷地内	144	57	28	16	9	10	12	4	2	6
	ごみ箱・屋外ごみ捨て場	17	16	-	-	1	-	-	-	-	-
	屋外駐車場	16	8	1	3	-	1	2	-	-	1
	屋外物品置場	3	1	-	1	1	-	-	-	-	-
車両	小計	16	6	1	1	3	2	-	2	-	1
	荷台	6	1	1	1	2	-	-	1	-	-
	運転席	5	3	-	-	-	1	-	1	-	-
	助手席	3	1	-	-	1	-	-	-	-	1
	その他	2	1	-	-	-	1	-	-	-	-
建物の部分	小計	7	4	1	-	1	-	-	-	1	-
	建物の外周部	3	2	-	-	1	-	-	-	-	-
	屋上	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-
	その他	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
工作物	小計	5	2	-	2	-	-	-	-	-	1
	歩道橋	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-
	その他	3	1	-	1	-	-	-	-	-	1

- 建物以外から出火した火災は「固有地（物）」が 180 件（49.7%）で約 5 割を占める。
- 着火物は「ごみくず」が 164 件（45.3%）で最も多く 4 割以上を占める。

3 火遊び

- 火災件数は38件で、火災件数は前年より18件増加。
- 建物火災は15件（39.5%）で全体の約4割を占める。

抽出条件：経過分類コード 「931火遊び」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「火遊び」とは、行為者が14歳未満の者で、遊びを目的として出火させた火災をいいます。

なお、玩具用火火で遊戯中に火出したものは、含んでいません。

ア 年別火災状況

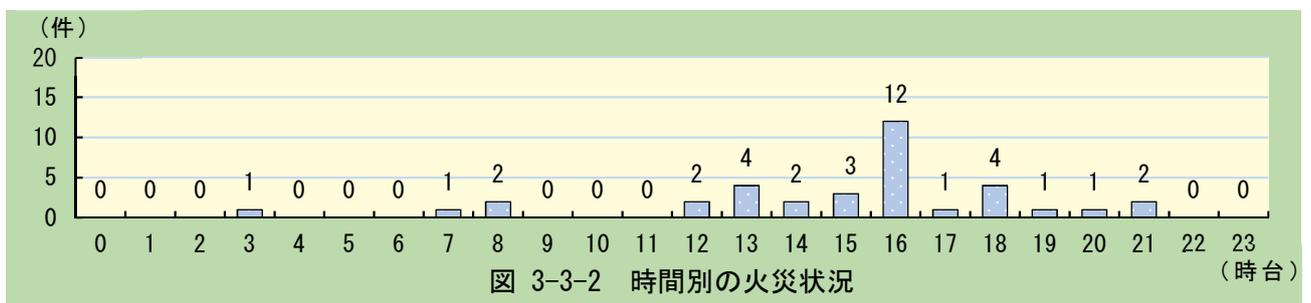
最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-3-1です。

表3-3-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	火災種別									焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
	合計	建物					車両	林野	その他					
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや								
26年	76	20	-	-	2	18	3	-	53	34	9	7,413	-	1
27年	72	26	-	2	5	19	-	2	44	120	18	30,700	-	4
28年	33	14	-	-	2	12	-	-	19	20	12	3,048	-	1
29年	49	19	-	-	5	14	-	-	30	15	5	2,707	-	3
30年	31	12	-	-	1	11	-	-	19	10	-	1,593	-	2
元年	21	11	-	-	3	8	-	-	10	16	3	3,610	-	-
2年	20	11	-	-	3	8	-	-	9	64	45	10,032	-	1
3年	26	6	-	-	-	6	-	-	20	-	-	42	-	2
4年	20	12	-	-	2	10	-	1	7	-	54	2,925	-	6
5年	38	15	-	-	2	13	-	-	23	7	2	8,785	-	4

イ 月別・時間別の発生状況

月別の火災状況についてみたものが図3-3-1、時間別の火災状況（出火時分不明の2件除く）についてみたものが図3-3-2です。



- 月別では、10月が8件（21.1%）で最も多く、次いで5月が6件（15.8%）発生。
- 時間別では、36件（出火時間不明の2件除く）のうち16時台が12件（33.3%）と最も多く、12時台から18時台にかけて火災が多発。

(2) 出火箇所

発火源別に出火箇所をみたものが表 3-3-2 です。

表 3-3-2 発火源別出火箇所

発火源	合計	出火箇所							
		建物関係 (主として建物の箇所)				建物関係以外 (主として建物以外の箇所)			
		ごみ 品捨 置場 ・ 場	居 室	一 般 店 舗	そ の 他	公 園	敷 地 内	道 路	そ の 他
合計	38	3	2	2	8	8	8	3	4
ライター	18	2	-	2	3	8	2	1	-
マッチ	9	-	2	-	3	-	2	-	2
火のついた棒	2	-	-	-	-	-	2	-	-
ガステーブル	1	-	-	-	1	-	-	-	-
火のついた油等	1	1	-	-	-	-	-	-	-
不明	7	-	-	-	1	-	2	2	2

ライターの火遊びによる火災の発生状況

最近5年間のライターの火遊びによる火災の行為者年齢別をみたものが図 3-3-3 です。



- 発火源別では、ライターが18件（47.4%）で最多。
- ライターの火遊びは増減を繰り返しながら増加傾向にあり、前年より5件増加。

(3) 子供に対するライターの安全対策

消費生活用製品安全法施行令の一部改正により、平成23年9月27日以降、使い捨てライター等は、幼児の誤使用を防ぐチャイルドレジスタンス機構（CR）を備えないライターや幼児が興味を引くようなおもちゃ型のライター（ノベルティライター）は販売できなくなりました。技術基準に適合しているライターについてはPSCマークの表示が義務付けられています。

4 ライター

- 火災件数は前年より 12 件減少しているが、焼損床面積、損害額は前年より増加。
- ライターによる火災の約 7 割を建物火災が占める。

抽出条件：①発火源分類コード 「42301 ライター」

②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

(1) 火災状況

ここでとりあげるライターによる火災とは、発火源がライターで、放火及び火遊びによる火災を除いたものをいいます。

ア 年別火災状況

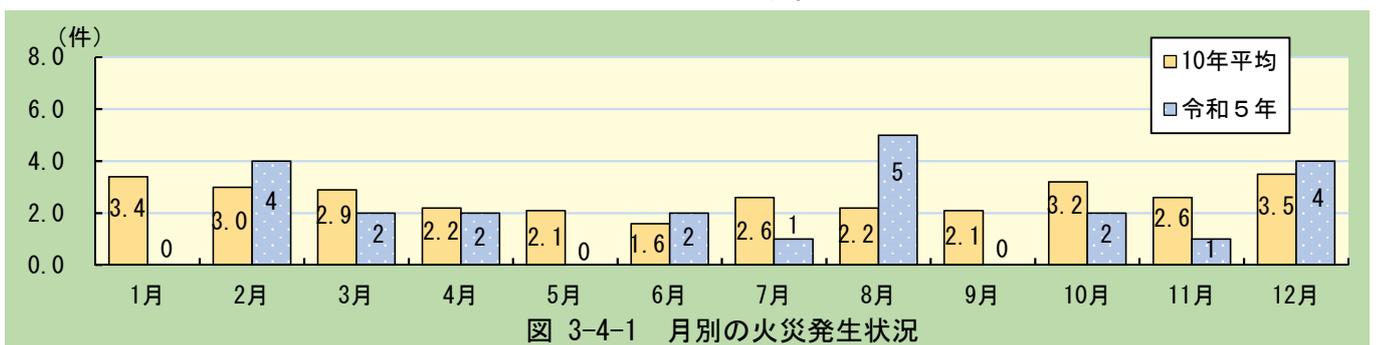
最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-4-1 です。

表 3-4-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年別	合計	火災の種類									損害状況				
		建物					林野	車両	船舶	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや									
26年	46	32	1	1	4	26	1	9	-	4	673	68	178,153	2	34
27年	33	18	-	-	2	16	-	11	-	4	77	20	23,320	1	11
28年	40	27	-	1	2	24	-	11	-	2	60	7	19,017	-	32
29年	28	21	-	1	2	18	-	5	-	2	34	21	5,968	-	15
30年	25	19	-	-	2	17	-	4	-	2	6	8	6,252	1	16
元年	29	19	-	1	3	15	-	7	-	3	91	24	59,481	-	14
2年	22	18	-	-	3	15	-	4	-	-	26	21	13,419	-	13
3年	33	21	1	-	3	17	-	9	1	2	202	57	11,873	-	18
4年	35	27	-	1	3	23	-	6	-	2	124	92	27,247	-	16
5年	23	17	-	-	5	12	-	6	-	-	135	29	32,873	-	13

イ 月別火災状況

ライターによる火災を月別にみたものが図 3-4-1 です。



- 8月が5件（21.7%）で最も多く発生。
- 最近10年間の月別平均件数では、12月が3.5件と最多。

(2) 経過別出火箇所区分

ライターによる火災の状況を経過別出火箇所区分で見たものが表3-4-2です。

表3-4-2 経過別出火箇所区分の状況

出火箇所区分		合計	経過別				
			入誤ってスイッチが入る（入れる）	引火する	火源が接触する	本来の用途以外の	その他・不明
合計		23	8	6	4	2	3
建物	小計	16	3	4	4	2	3
	建物（自宅）	9	1	2	2	2	2
	建物（事業用）	5	2	2	-	-	1
	建物（その他）	1	-	-	1	-	-
	建物（自宅以外）	1	-	-	1	-	-
建物以外	車両からの出火	6	5	1	-	-	-
	屋外で出火	1	-	1	-	-	-

- ライターによる火災は建物で16件（69.6%）発生。そのうち、自宅から出火しているのは9件（39.1%）で約4割を占める。
- 経過別では、「誤ってスイッチが入る（入れる）」が8件（34.8%）で3割以上を占める。次いで「引火する」が6件（26.1%）発生。

5 ロウソク

- 火災件数が 38 件で前年と比べて 2 件増加。
- 死者が 4 名発生しており、最近 10 年でみると平成 30 年、令和 4 年と同数で最多。

抽出条件：①発火源分類コード 「41701 ロウソク」、「41702 灯明」、「41703 ちょうちん」、「41704 灯ろう」、「41705 走馬灯」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

火災状況

ここでとりあげる「ロウソク」とは、アロマテラピーや照明で使う「ロウソク」や宗教等のために用いる「灯明*」などをまとめた火災をいいます。

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-5-1、ロウソクによる火災の経過をみたものが図 3-5-1、ロウソクの使用目的をみたものが図 3-5-2 です。

表 3-5-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年別	火災合計	火災の種類						損害状況							
		建物小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	車両	船舶	林野	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
26 年	56	56	1	1	15	39	-	-	-	-	210	214	44,925	-	21
27 年	40	40	-	1	12	27	-	-	-	-	137	128	57,794	-	18
28 年	48	47	2	3	11	31	-	-	-	1	473	180	85,770	1	24
29 年	46	46	2	4	10	30	-	-	-	-	422	160	64,061	-	25
30 年	41	40	2	3	11	24	-	-	-	1	911	98	135,331	4	15
元年	42	41	3	2	12	24	-	-	-	1	611	149	58,296	2	17
2 年	31	31	1	2	10	18	-	-	-	-	406	179	89,762	-	18
3 年	40	38	-	4	8	26	-	-	-	2	304	142	75,158	1	28
4 年	36	35	1	4	5	25	-	-	-	1	465	270	124,323	4	17
5 年	38	38	4	2	5	27	-	-	-	-	647	222	125,081	4	28

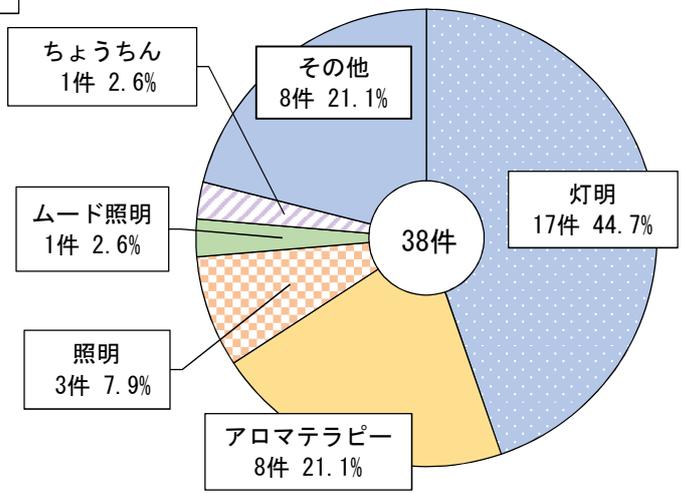
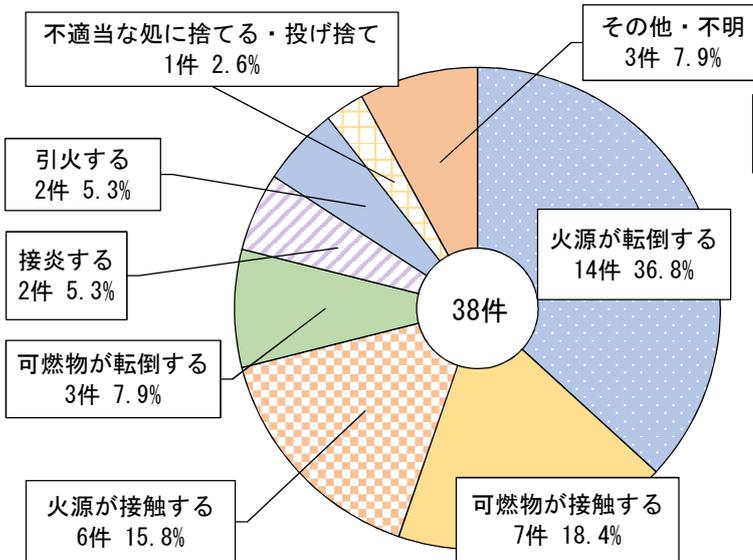


図 3-5-1 ロウソクによる火災の経過

図 3-5-2 ロウソクの使用目的

- 火災の経過をみると、ロウソクが転倒して出火したものが 14 件と最多。
- ロウソクの使用目的は、灯明が 17 件で 4 割以上を占める。

6 電気設備機器

- 電気設備機器火災における建物火災は1,372件で、最近10年で最多。
- リチウムイオン電池関連火災の件数は10年前と比べて約9倍に増加。

抽出条件：①発火源分類コード 大分類コード「1 電気を使用する道具・装置」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード「0 非該当」

(1) 火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-6-1です。

表3-6-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	全火災件数	火電 気 災 設 備 機 器 件 数	全火災に対する割合 (%)	火災種別									損害状況				
				建物					航 空 機	車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (㎡)	焼 損 表 面 積 (㎡)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
				小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
26年	4,804	1,020	21.2	901	27	23	119	732	-	1	2	116	6,502	1,971	1,354,817	23	189
27年	4,430	1,047	23.6	909	21	21	104	763	-	-	2	136	5,685	1,913	970,983	18	178
28年	3,980	1,052	26.4	924	11	18	108	787	-	1	-	127	3,526	1,856	931,198	11	192
29年	4,204	1,152	27.4	1,019	22	17	118	862	-	-	-	133	4,447	1,819	1,208,237	13	171
30年	3,972	1,205	30.3	1,043	14	28	113	888	-	-	-	162	3,933	1,549	1,051,712	11	164
元年	4,085	1,283	31.4	1,143	15	21	103	1,004	-	-	-	140	5,173	1,663	4,197,587	13	159
2年	3,693	1,163	31.5	1,057	13	15	102	927	-	-	-	106	2,767	1,646	917,825	14	159
3年	3,935	1,399	35.6	1,274	16	31	111	1,116	-	-	-	125	4,878	2,760	1,576,641	18	182
4年	3,952	1,467	37.1	1,298	28	17	116	1,137	-	-	-	169	7,415	1,764	1,614,097	19	206
5年	4,329	1,512	34.9	1,372	17	20	131	1,204	-	-	-	140	5,087	2,491	1,872,227	15	198

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

- 令和5年中の電気設備機器火災件数は1,512件で最近10年間では最多であるが、割合は2.2ポイント減少。
- 火災種別をみると、建物火災件数が1,372件で、前年と比べて74件増加。
- 電気設備機器火災の死者は、15人発生し、傷者は198人発生。

表 3-6-2 電気設備機器による発火源と経過（その1）

発火源	合計	電線が短絡する	金属の接触部が過熱する	過熱する	トラッキング	過多の電流（含電圧）が流れる	地絡する	考え違いにより使用を誤る	可燃物が接触する	半断線により発熱する	絶縁劣化により発熱する	放置する・忘れる	誤ってスイッチが入る（入れる）	スパークする	火花が飛ぶ	放射を受けて発火する	火源が接触する	可燃物が落下する	構造が不完全である	スパークにより引火する	漏洩放電する	誤結線する	引火する	その他	不明		
																										合	電
合計	1,512	462	232	107	106	101	65	61	50	42	35	28	27	21	20	19	18	10	9	7	6	5	4	31	46		
電熱器	小計	254	31	15	37	5	1	2	14	32	22	-	10	19	4	8	7	17	8	2	-	-	1	2	12	5	
	電気ストーブ	48	1	1	-	-	-	-	-	23	1	-	-	2	-	-	6	2	8	-	-	-	-	-	3	1	
	電気トースター	32	2	1	20	-	-	-	4	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
	ヘアードライヤー	32	14	1	1	-	-	-	-	1	14	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	投込湯沸器	20	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	1	
	電気クッキングヒーター	15	-	-	1	-	-	-	1	2	-	-	4	4	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	
	電気こんろ	12	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	4	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	電気ポット	11	2	2	-	-	-	1	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	電気溶接器	10	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
	カーペット類	6	-	-	2	1	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	温風機	5	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ホットプレート	5	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
電気フライヤー	5	-	1	2	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
その他の電熱器	53	10	7	9	2	1	1	1	4	2	-	1	3	1	-	1	1	-	-	-	-	1	-	7	1		
電気機器	小計	685	279	31	68	39	44	16	44	18	9	21	18	8	8	12	12	1	2	7	6	6	-	2	12	22	
	充電式電池	109	92	-	-	1	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	5	
	電子レンジ	87	2	2	50	2	-	1	25	-	1	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	電磁調理器	42	1	4	10	1	1	-	1	-	1	-	18	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	直流電源装置（ACアダプタ含む）	37	22	-	1	2	4	5	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
	LED	36	7	2	-	7	11	1	3	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
	コンピュータ（本体）	26	21	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	
	蛍光灯	25	12	-	-	-	1	2	1	-	-	7	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	電気冷蔵庫	17	8	2	-	2	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
	携帯電話機	14	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	掃除機	14	10	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
	ダウンライト	13	-	-	-	-	4	2	-	1	-	-	-	1	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	研磨機（グラインダ含む）	13	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	
	カーボンヒーター	12	-	-	-	-	-	-	-	6	1	-	-	1	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	1	-	
	冷暖房機	12	4	2	1	2	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	扇風機	11	7	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	シーリングライト	9	2	2	1	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	レーザ加工機	8	-	-	4	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	白熱電球	8	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	2	
	冷蔵ショーケース	8	3	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	サーキュレーター	7	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ネオン灯配線	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	
	食器洗器	7	1	2	-	2	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
スポットライト	6	3	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ブラケット	6	-	-	-	-	1	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
電気ドリル	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-		
蓄電池	5	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-		
洗濯乾燥機	5	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
その他の電気機器	135	56	10	1	13	9	4	6	5	1	7	-	1	2	3	3	-	-	1	2	1	-	-	3	7		

(2) 主な出火原因

電気設備機器を、発火源別に電熱器、電気機器、電気装置、配線等及び配線器具等に分類したものが表 3-6-2 です。

ア 発火源の分類別火災状況

(7) 電熱器

- 電熱器関係の火災は 254 件（16.8%）で、前年と比べて 1 件増加。
- 電熱器の中で火災件数が最も多いのは、「電気ストーブ」で 48 件（18.9%）発生。
- 「電気ストーブ」の経過は、布団類などの可燃物が接触する火災が 23 件（47.9%）発生。

(イ) 電気機器

- 電気機器関係の火災件数は 685 件（45.3%）で、前年と比べて 62 件増加。
- 電気機器関係火災の上位 3 位をみると、充電式電池が 109 件（15.9%）で最も多く、次いで電子レンジが 87 件（12.7%）、電磁調理器が 42 件（6.1%）となっている。
- 充電式電池の経過をみると、「電線が短絡する」が 92 件（84.4%）と最多。

(ウ) 電気装置

- 電気装置関係の火災件数は 99 件（6.6%）で、前年と比べて 13 件増加。
- 電気装置関係の中で最も多いのは、「制御盤」の 34 件（34.3%）で、次いで「分電盤」の 25 件（25.3%）となっている。
- 「制御盤」の経過をみると、「電線が短絡する」が 9 件（26.5%）で約 3 割を占め、次いで「金属の接触部が過熱する」が 8 件（23.5%）及び「過多の電流（含電圧）が過熱する」が 5 件（14.7%）発生。

(エ) 配線等・配線器具等

- 配線等・配線器具等の火災は合わせて 471 件（31.2%）で、前年と比べて 29 件減少。
- 配線器具等の火災は 317 件発生し、このうちコンセントが 87 件（27.4%）、次いで差込みプラグが 81 件（25.6%）発生。経過の内訳をみると、いずれも「金属の接触部が過熱する」が最多。

イ 電気機器の部位別の火災状況

電気機器関係の火災 685 件の主な出火部位をみたものが表 3-6-3 です。

表 3-6-3 主な電気機器の出火部位（上位 9 位）

発火源	合計	充電部	差込みプラグ	庫内	基板	電源コード（器具付きコード）	ヒータ部	器具内配線	安定器	コンデンサ部	その他の電気器具部分	その他・不明
合計	685	166	93	80	62	55	29	21	20	10	100	49
充電式電池	109	101	-	-	6	-	-	-	-	-	1	1
電子レンジ	87	-	5	79	-	2	-	-	-	-	1	-
電磁調理器	42	-	6	1	3	1	10	-	-	1	18	2
直流電源装置（ACアダプタ含む）	37	-	28	-	3	3	-	-	-	-	2	1
LED	36	3	2	-	13	2	-	4	-	2	7	3
コンピュータ（本体）	26	14	8	-	2	1	-	-	-	-	1	-
蛍光灯	25	-	-	-	-	1	-	2	20	-	2	-
電気冷蔵庫庫	17	-	5	-	1	7	-	3	-	-	1	-
携帯電話機	14	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
掃除機	14	10	1	-	1	2	-	-	-	-	-	-
ダウンライト	13	-	-	-	1	1	-	-	-	-	10	1
研磨機（グラインダ含む）	13	-	-	-	-	-	-	1	-	-	6	6
冷暖房機	12	-	3	-	2	2	-	-	-	2	1	2
カーボンヒータ	12	-	-	-	-	1	10	-	-	-	1	-
扇風機	11	1	1	-	3	3	-	-	-	1	-	2
シーリングライト	9	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-
レーザー加工機	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	3
白熱電球	8	-	-	-	-	1	1	2	-	-	4	-
冷蔵ショーケース	8	-	3	-	-	2	-	1	-	-	1	1
その他の電気機器	184	23	31	-	18	26	8	8	-	4	39	27

注1 その他の電気器具部分とは、発火源部位の項目に該当していない部分を示します。

注2 その他・不明とは上位 9 位に該当しない部位を含みます。

(7) 充電部

- 電気機器の充電部から出火した火災は、166 件（24.2%）で、前年と比べて 26 件増加。
- 発火源別に充電部からの出火をみると、充電式電池の充電部からの火災が 101 件（60.8%）と最多。

(イ) 庫内部

- 庫内部から出火した火災は 80 件（11.7%）発生し、電子レンジで 79 件発生。

(ウ) 差込みプラグ・電源コード

- 差込みプラグから出火した火災は、93 件（13.6%）発生。
- 電源コードから出火した火災は、55 件（8.0%）発生。

(エ) 基板部

- 基板部から出火した火災は 62 件（9.1%）発生し、「LED」の 13 件（21.0%）が最多。次いで「シーリングライト」で 9 件（14.5%）及び「充電式電池」で 6 件（9.7%）発生。

(オ) その他の電気器具部分

- その他の電気器具部分から出火した火災は、100 件（14.6%）発生。
- 発火源をみると、電磁調理器が 18 件（18.0%）で最も多く発生し、次いでダウンライトで 10 件（10.0%）発生。

(3) 火元の用途別火災発生状況

電気設備機器の火災を火元の用途別にみたものが表 3-6-4 です。

表 3-6-4 火元用途別火災状況（最近 10 年間）

火元用途区分	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	前年比		
合計	1,020	1,047	1,052	1,152	1,205	1,283	1,163	1,399	1,467	1,512	45		
用途	建物	政令用途対象物	453	458	488	537	549	660	565	652	690	726	36
		(%)	44.4	43.7	46.4	46.6	45.6	51.4	48.6	46.6	47.0	48.0	1.0
		住宅・共同住宅等	447	444	426	479	487	474	487	612	604	637	33
		(%)	43.8	42.4	40.5	41.6	40.4	36.9	41.9	43.7	41.2	42.1	1.0
		その他（建物以外）	120	145	138	136	169	149	111	135	173	149	▼24
(%)	11.8	13.8	13.1	11.8	14.0	11.6	9.5	9.6	11.8	9.9	▼1.9		

- 政令用途対象物をみると、令和 5 年は 726 件（48.0%）になり、電気設備機器火災全体の 5 割近くを占める。

(4) 出火要因別発生状況

電気設備機器関係の火災の出火要因をみたものが図 3-6-1 です。

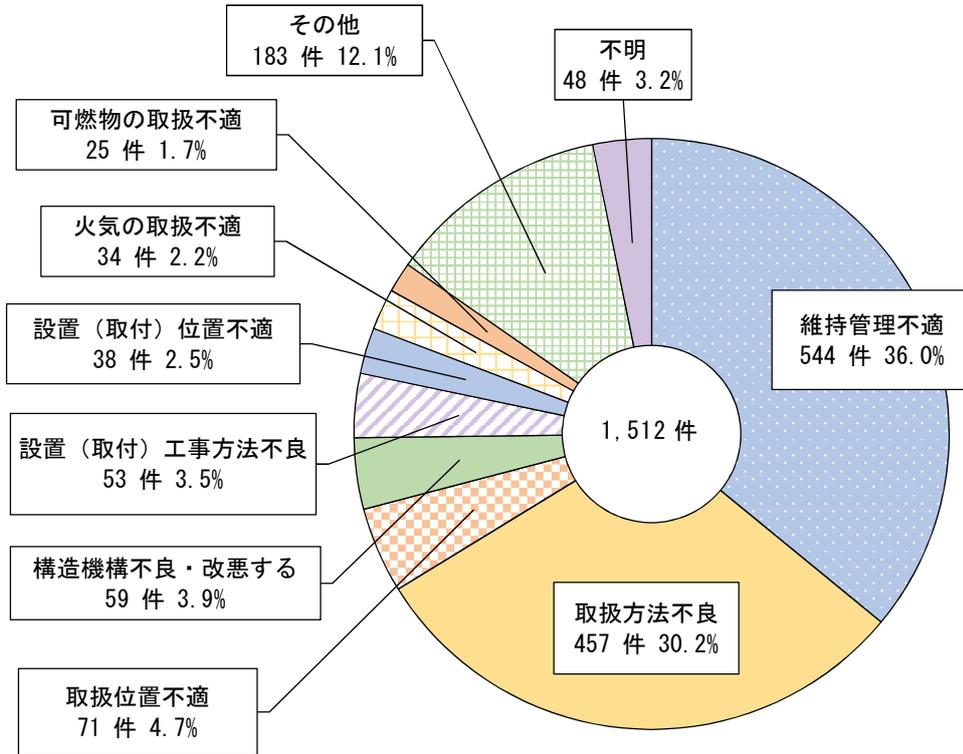


図 3-6-1 出火要因別発生状況

○ 出火要因別発生状況を見ると、「維持管理不適」が 544 件と最も多く、次いで「取扱方法不良」が 457 件で、この 2 項目で 6 割以上を占める。

(5) その他の特筆すべき火災状況

ア 電気ストーブ等からの火災

令和 5 年の「電気ストーブから等の火災」を行為者の年齢別にみたものが図 3-6-2 です。

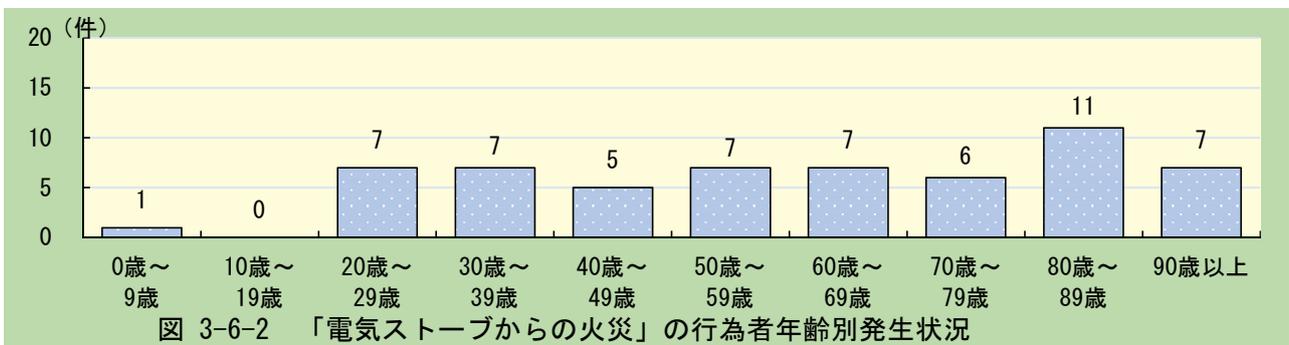


図 3-6-2 「電気ストーブからの火災」の行為者年齢別発生状況

注 1 「電気ストーブ等からの火災」は、電気ストーブ、カーボンヒータ*、ハロゲンヒータ及び温風機の 4 項目を合わせたものをいいます。

2 行為者年齢が不明の 9 人を除いています。

○ 電気ストーブ等からの火災の行為者年齢別発生状況を見ると、80 歳～89 歳が 11 人 (16.4%) で最多。

イ リチウムイオン電池関連火災の発生状況

リチウムイオン電池関連火災の状況をみたものが表 3-6-5 です。

(7) 火災状況

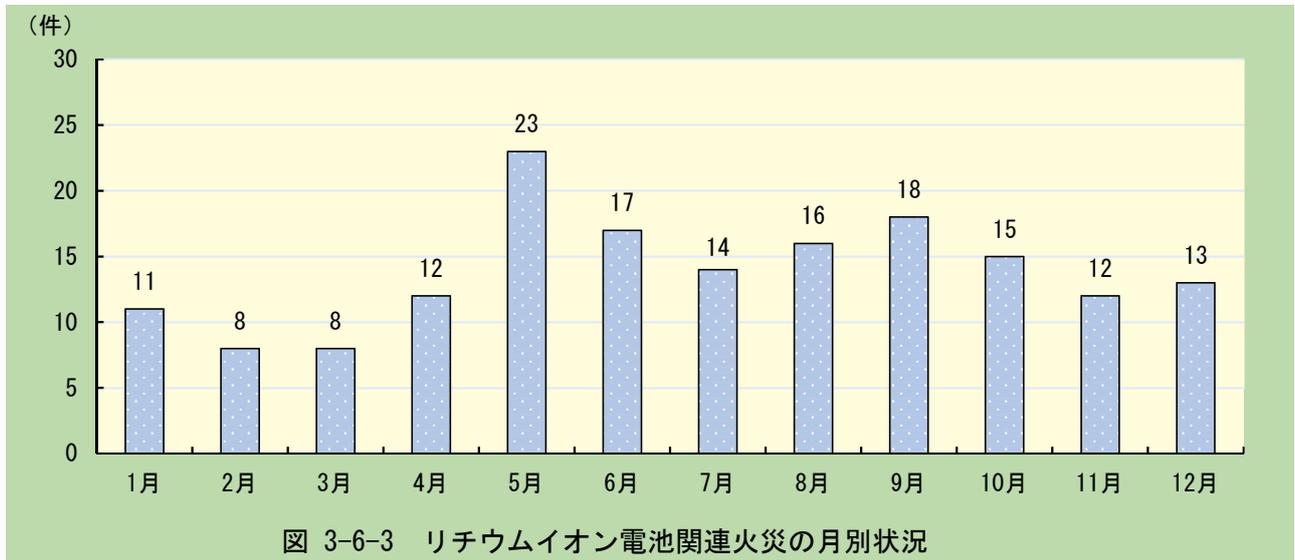
最近 10 年間のリチウムイオン電池関連火災状況をみたものが表 3-6-5、リチウムイオン電池関連火災の月別状況をみたものが図 3-6-3 です。

表 3-6-5 リチウムイオン電池関連火災状況（最近 10 年間）

年 別	火災事件数							損害状況				
	合計	建物					車 両	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や						
26 年	19	18	-	-	3	15	-	1	11	6	-	6
27 年	26	21	-	-	3	18	3	1	2	53	-	3
28 年	55	48	-	-	6	42	2	2	77	40	-	22
29 年	56	47	-	-	5	42	7	5	32	41	-	4
30 年	82	69	-	1	4	64	6	7	74	40	-	10
元年	102	95	1	1	11	82	2	5	400	257	-	12
2 年	104	93	-	2	11	80	5	6	200	195	-	22
3 年	141	124	5	5	16	98	6	11	860	289	-	30
4 年	150	124	4	-	17	103	10	16	513	109	1	42
5 年	167	151	1	1	23	126	2	14	811	119	-	14

注 1 リチウムイオン電池関連火災とは、リチウムイオン電池等を搭載した製品（差込みプラグ及び器具コードを除く。）から出火した火災をいう。

2 リチウムイオン電池関連火災には、ごみ回収中のごみ収集車から出火した火災及びごみ処理関連施設（業態が一般廃棄物処理業及び産業廃棄物処理業）から出火した火災を除く。



- リチウムイオン電池関連火災の件数は 167 件で、最近 10 年間で最多。
- リチウムイオン電池関連火災の月別の火災状況では、5 月から 9 月にかけて 88 件（52.7%）発生。

(イ) 出火時の状況別の火災状況

令和5年中の出火要因別火災状況をみたものが表3-6-6、製品の入手時期及びPSEマークの有無をみたものが表3-6-7、出火前の使用状況をみたものがそれぞれ表3-6-8、表3-6-9です。

表3-6-6 出火要因別火災状況

出火要因	合計	モバイル	携帯	電動	コード	電動	タ	ポ	玩	ノ	加	L	ポ	ワ	ポ	携	防	そ	不
		バッテリー	電話機	アシスト付自転車	ドレス掃除機	工具	ブレット	ータブル電源	具製品	ートパソコン	熱式たばこ	E D	ータブルスピーカー	イヤホン	ータブルプレーヤー	帯扇風機	犯カメラ	の他	明
合計	167	44	17	14	13	11	9	7	6	5	4	3	3	2	2	2	2	16	7
いつも通り使用していたが出火	39	21	1	2	1	2	2	1	1	1	-	-	2	1	1	1	-	2	-
外部衝撃（落下・外力等）	18	3	6	1	-	-	2	-	-	1	1	1	-	-	1	-	1	-	1
分解・廃棄等	16	-	9	-	-	-	4	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
充電方法誤り	16	4	-	2	4	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	3	-
製品の欠陥（リコール含む）	6	1	-	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
その他	5	-	1	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
不明	67	15	-	7	7	8	1	6	1	1	2	1	1	1	-	1	1	8	6

注 製品のその他内訳には、車両用バッテリー、CO₂濃度測定器、ビデオカメラ、手指消毒器、掃除用電動ブラシなどを含みます。

表3-6-7 出火要因別製品の入手時期及びPSEマークの有無

出火要因	合計	製品の入手時期									PSEマークの有無		
		1	2	3	4	5	6	6	不	あ	な	不	
		年未	年未	年未	年未	年未	年未	年以上	明				
合計	167	22	19	20	11	4	8	19	64	35	13	119	
いつも通り使用していたが出火	39	4	6	6	4	2	2	6	9	5	2	32	
外部衝撃（落下・外力等）	18	-	2	-	1	-	1	1	13	6	1	11	
分解・廃棄等	16	1	-	3	1	1	1	2	7	5	-	11	
充電方法誤り	16	5	3	-	-	1	1	2	4	6	2	8	
製品の欠陥（リコール含む）	6	1	-	1	-	-	-	3	1	-	1	5	
その他	5	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	5	
不明	67	11	8	10	5	-	3	4	26	13	7	47	

表 3-6-8 出火要因別出火前の製品異常および出火時の充電状況

出火要因	合計	出火前の製品異常						出火時の充電状況				
		特になし	ふくらしみ	充電出来ない	入電源ないが	その他	不明	充電中	非充電中	使用中	その他	不明
合計	167	91	7	2	1	6	60	82	65	10	2	8
いつも通り使用していたが出火	39	26	1	-	-	-	12	20	14	5	-	-
外部衝撃（落下・外力等）	18	8	1	-	-	-	9	1	15	-	1	1
分解・廃棄等	16	4	1	1	-	1	9	-	16	-	-	-
充電方法誤り	16	8	-	-	-	2	6	16	-	-	-	-
製品の欠陥（リコール含む）	6	3	-	1	-	-	2	3	2	-	-	1
その他	5	1	1	-	-	-	3	2	3	-	-	-
不明	67	41	3	-	1	3	19	40	15	5	1	6

表 3-6-9 出火要因別出火直前の使用状況

出火要因	合計	出火直前の使用状況						
		毎日使っている	1週間以内に使った	3か月以内に使った	1年以上前に使った	初めて使った	その他	不明
合計	167	50	16	10	2	3	8	78
いつも通り使用していたが出火	39	16	5	3	-	2	-	13
外部衝撃（落下・外力等）	18	3	2	-	-	-	-	13
分解・廃棄等	16	3	-	-	-	-	1	12
充電方法誤り	16	2	2	1	-	1	1	9
製品の欠陥（リコール含む）	6	3	1	-	-	-	1	1
その他	5	1	-	-	1	-	-	3
不明	67	22	6	6	1	-	5	27

- 出火要因別火災状況の製品をみるとモバイルバッテリーが44件（26.3%）で最多。
- 製品の入手時期をみると、「1年未満」が22件（13.2%）で最多。
- 出火前の製品異常をみると、「特になし」が91件（54.5%）で最多。
- 出火直前の使用状況をみると、「毎日使っている」が50件（29.9%）で最多。

ウ トラッキング

最近5年間のトラッキング現象による火災の年別発生状況をみたものが表3-6-10です。

差込みプラグのトラッキング現象による火災は、差し刃間の絶縁物上に湿気を含むちりや埃などが付着した状態で電圧が印加されると、沿面電流が流れ、小規模な放電が発生し、この放電による火花により絶縁物表面に導電性のあるグラファイトが生じて火災に至ります。

表 3-6-10 年別発生状況（最近5年間）

年別	電気火災件数	トラッキング火災件数 (電気火災に占める割合%)		差込みプラグ差し刃間の トラッキング火災件数 (トラッキング火災に占める割合%)	
		件数	割合(%)	件数	割合(%)
元年	1,283	108	(8.4)	30	(27.8)
2年	1,163	95	(8.2)	21	(22.1)
3年	1,399	122	(8.7)	39	(32.0)
4年	1,467	127	(8.7)	36	(28.3)
5年	1,512	106	(7.0)	34	(32.1)

注 差込みプラグの差し刃間のトラッキング火災件数は、「発火源が配線器具の差込みプラグで経過がトラッキング」、「電気設備機器（発火源が配線器具の差込みプラグを除く）のうち経過がトラッキングで発火源部位が差込みプラグ」の合計です。

- トラッキング現象による火災は、106件（前年比21件減少）発生し、電気設備機器火災の7.0%を占める。
- トラッキング火災件数のうち、差込みプラグ差し刃間で発生した火災件数は34件（32.1%）発生し、トラッキング火災に占める割合は最近5年間で最多。

7 ガス設備機器

- ガス設備機器の火災における厨房関連設備機器の火災は 94.2% を占める。
- 全火災に対する割合が、令和 5 年では 14.2% で前年と比べて 0.7 ポイント増加。

抽出条件：①発火源分類コード 中分類コード「21 都市ガス」、「22 プロパンガス」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード 「0 非該当」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「ガス設備機器」の火災とは、都市ガス及びプロパンガスを燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-7-1 です。

表 3-7-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年別	全火災件数	火ガス設備機器数	全火災に対する割合 (%)	火災の種類								損害状況				
				建物					車	船	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面积 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
				小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや								
26 年	4,804	623	13.0	611	8	9	76	518	-	-	12	2,309	1,322	466,355	5	224
27 年	4,430	694	15.7	681	8	11	101	561	-	-	13	2,102	1,352	363,408	9	252
28 年	3,980	588	14.8	580	5	10	70	495	-	-	8	1,563	1,393	1,048,672	9	276
29 年	4,204	560	13.3	549	6	9	82	452	-	-	11	2,119	824	719,562	7	194
30 年	3,972	508	12.8	489	5	4	72	408	-	-	19	1,129	833	246,254	4	185
元年	4,085	582	14.2	569	5	6	74	484	-	1	12	1,403	830	326,554	3	202
2 年	3,693	571	15.5	560	2	8	69	481	-	-	11	952	673	270,102	5	218
3 年	3,935	542	13.8	528	2	7	46	473	1	-	13	835	553	218,162	5	163
4 年	3,952	535	13.5	524	4	4	53	463	-	1	10	1,051	469	242,642	5	198
5 年	4,329	614	14.2	605	5	6	69	525	-	-	9	1,519	998	417,093	6	222

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

- 令和 5 年中の火災件数は 614 件で前年と比べて 79 件増加し、平成 28 年以降では最多。
- 建物火災の焼損程度をみると、令和 5 年中の部分焼以上の延焼火災は 80 件で前年と比べて 19 件増加。

(2) 主な出火原因

主なガス設備機器別の発火源と経過をみたものが表 3-7-2 です。

表 3-7-2 ガス設備機器の発火源と経過

発火源	合計	放置する・忘れる	接炎する	可燃物が接触する	引火する	過熱する	誤ってスイッチが入る(入れる)	考え違いにより使用を誤る	火のついた油等が吸い込まれる	可燃物が落下する	可燃物が沸騰する・あふれ出る	伝導過熱する	可燃物を置く	火花が飛ぶ	その他	不明	
																	計
合計	614	212	83	78	64	44	25	24	13	8	8	7	6	6	29	7	
厨房 関連 連	小計	578	212	73	74	55	44	25	24	13	6	8	7	6	-	24	7
	ガステーブル	292	77	44	49	30	18	24	24	-	4	5	2	3	-	8	4
	大型ガスこんろ	114	76	8	2	3	11	-	-	-	-	1	5	-	-	7	1
	簡易型ガスこんろ	42	15	3	10	10	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
	大型レンジ	33	19	3	1	3	5	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	ガスこんろ	31	16	6	4	1	-	-	-	-	2	1	-	1	-	-	-
	無煙ガスのろスタ	16	-	-	-	-	1	-	-	13	-	1	-	1	-	-	-
	ガスレンジ	9	2	2	1	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	ガス炊飯器	6	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	ガスハースグリラー	6	1	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	フライヤ	5	1	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガスのろスタ (無煙を除く)	5	-	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コーヒー焙煎機	4	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
その他の厨房関連	15	4	2	2	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	
家事・ 季節 関連	小計	27	-	9	4	9	-	-	-	-	1	-	-	-	-	4	-
	ガス乾燥機	6	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガスストーブ	6	-	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	ガスファンヒーター	5	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	風呂がま	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガス衣類乾燥機	3	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の家事・季節関連	4	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	
工業 関連	小計	9	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	1	-
	ガス切断器	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-
	ガス溶解炉	2	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	ガスハンドトーチ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

- 厨房関連設備機器の火災は 578 件発生し、ガス設備機器の 94.1%を占める。
- 厨房関連設備機器の経過で最も多いのは、「放置する・忘れる」の 212 件 (36.7%) で 3 割以上を占める。
- 家事・季節関連機器の火災は 27 件 (4.4%) 発生し、ガス乾燥機及びガスストーブが各 6 件 (22.2%) 発生。
- 工業関連機器の火災は 9 件 (1.5%) 発生し、そのうち 6 件 (66.7%) がガス切断器に起因して発生。

(3) 出火要因別発生状況

出火要因別発生状況をみたものが表 3-7-3 です。

また、主な出火原因でガステーブル等の部位別着火物及び経過の状況をみたものが表 3-7-4 です。

表 3-7-3 ガス設備機器の出火要因

発火源		合計	火気の取扱不適	取扱方法不良	維持管理不適	可燃物の取扱不適	取扱位置不適	設置位置（取付）不適	工事置方（取付）不良	その他	不明
合計		614	205	155	104	60	52	8	3	20	7
厨房 関連 連	小計	578	202	151	90	56	45	7	1	19	7
	ガステーブル	292	86	96	28	39	20	5	-	14	4
	大型ガスこんろ	114	63	14	21	5	9	1	-	-	1
	簡易型ガスこんろ	42	15	13	1	2	5	1	-	3	2
	大型レンジ	33	14	10	6	1	1	-	1	-	-
	ガスこんろ	31	13	7	1	2	6	-	-	2	-
	無煙ガスロースタ	16	2	2	12	-	-	-	-	-	-
	ガスレンジ	9	1	3	2	2	1	-	-	-	-
	ガス炊飯器	6	-	2	-	2	2	-	-	-	-
	ガスハースグリラー	6	-	1	4	1	-	-	-	-	-
	フライヤ	5	2	-	3	-	-	-	-	-	-
	ガスロースタ（無煙を除く）	5	1	-	3	1	-	-	-	-	-
	コーヒー焙煎機	4	2	-	2	-	-	-	-	-	-
	その他の厨房関連	15	3	3	7	1	1	-	-	-	-
家事・季節 関連 連	小計	27	-	3	14	4	5	-	-	1	-
	ガス乾燥機	6	-	-	6	-	-	-	-	-	-
	ガスストーブ	6	-	-	1	1	4	-	-	-	-
	ガスファンヒータ	5	-	-	2	2	-	-	-	1	-
	風呂がま	3	-	1	1	1	-	-	-	-	-
	ガス衣類乾燥機	3	-	-	2	-	1	-	-	-	-
その他の家事・季節関連	4	-	2	2	-	-	-	-	-	-	
工業 関連 連	小計	9	3	1	-	-	2	1	2	-	-
	ガス切断器	6	3	1	-	-	-	-	2	-	-
	ガス溶解炉	2	-	-	-	-	1	1	-	-	-
	ガスハンドトーチ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-

表 3-7-4 ガステーブル等における部位別着火物及び経過の状況

部 位 別		合 計	放置する・忘れる	可燃物が接触する	接 炎 する	引 火 する	誤ってスイッチが入る（入れる）	使用を誤る	考え違いにより	過 熱 する	可燃物が沸騰する・あふれ出る	可燃物が落下する	その他・不明
合 計		374	110	64	55	43	25	24	19	6	6	22	
こ ん ろ 部	小 計	326	93	64	52	42	16	23	7	6	6	19	
	動 植 物 油	53	42	-	-	-	-	-	5	5	-	1	
	着 衣	40	-	39	1	-	-	-	-	-	-	-	
	砂 糖 ， 食 料	36	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	台 所 用 品	29	2	5	8	-	4	5	-	-	1	4	
	L P G（エアゾール用）	21	-	-	-	21	-	-	-	-	-	-	
	電 気 製 品	21	1	-	2	-	1	16	1	-	-	-	
	繊維製品，しゅろほうき	20	1	6	6	-	2	-	-	-	4	1	
	その他の紙・紙製品	18	-	4	6	1	2	2	-	-	-	3	
	その他の合成樹脂及び成型品	16	4	3	4	-	4	-	-	-	-	1	
	ご み く ず	14	-	2	8	-	1	-	-	1	1	1	
そ の 他 ・ 不 明	58	6	5	17	19	2	-	1	-	-	8		
グ リ ル 部	小 計	42	18	-	2	-	8	1	12	-	-	1	
	油 か す	19	8	-	1	-	3	-	7	-	-	-	
	砂 糖 ， 食 料	15	10	-	-	-	1	-	4	-	-	-	
	台 所 用 品	4	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	
	そ の 他 ・ 不 明	4	-	-	-	-	1	1	1	-	-	1	
部 そ の 他 分	小 計	6	-	-	1	2	1	-	-	-	-	2	
	都 市 ガ ス	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	
	そ の 他 ・ 不 明	4	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2	

- 出火要因をみると、厨房関連では「火気の取扱不適」が202件で最も多く、全体の32.9%を占め、次いで「取扱方法不良」が151件（24.6%）、「維持管理不適」が90件（14.7%）
- ガステーブル等における火災は374件発生しており、ガス設備機器に起因する火災の60.9%を占める。
- ガステーブル等における部位別は「こんろ部」が326件（87.2%）を占め、そのうち着火物は「動植物油」が53件（16.3%）、次いで「着衣」が40件（12.3%）発生。
- ガステーブル等における部位別は「グリル部」が、42件（11.2%）で、そのうち着火物は「油かす」が19件（45.2%）、次いで「砂糖，食料」が15件（35.7%）発生。

(4) ガス漏れ火災

ア 年別火災状況

最近10年間のガス漏れ火災年別状況をみたものが表3-7-5、最近20年間のガス漏れ火災件数の推移をみたものが図3-7-1です。

表3-7-5 ガス漏れ火災年別状況

ガス種別	年別	合計	火災の種類					別 所 の 他	損害状況				
			建 小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や		焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	傷 者
都市ガス	26年	6	6	-	-	-	6	-	-	-	10	-	-
	27年	12	12	-	-	1	11	-	-	1	55	-	1
	28年	6	6	-	-	-	6	-	-	-	8	-	1
	29年	5	5	-	-	-	5	-	-	-	29	-	-
	30年	9	8	-	-	-	8	1	-	-	73	-	1
	元年	10	10	-	-	1	9	-	30	25	6,543	-	4
	2年	9	9	-	-	1	8	-	2	1	424	-	2
	3年	7	6	-	-	-	6	1	-	-	195	-	2
	4年	12	11	-	-	2	9	1	40	5	16,696	1	2
	5年	9	9	-	1	1	7	-	20	1	11,596	-	1
プロパンガス	26年	2	1	-	-	-	1	1	-	-	5	-	-
	27年	5	4	-	-	1	3	1	-	4	182	-	2
	28年	2	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	5
	29年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	30年	4	-	-	-	-	-	4	-	-	11	-	1
	元年	2	1	-	-	-	1	1	-	-	2,387	-	-
	2年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	3年	3	2	-	-	-	2	1	-	-	6,250	-	2
	4年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-
	5年	4	3	-	-	-	3	1	-	-	97	-	4



イ 要因別の状況

令和5年中のガス漏れ火災のガス漏れ要因をみたものが表3-7-6です。

表3-7-6 ガス漏れ要因の状況

ガス種別	発火源	ガス漏れ器具	合計	差し込み不良	ゴム管老化き裂	バンドの締付不良	屋内配管の腐食	器具コック故障	器具コック誤操作	その他・不明
合計			13	2	1	1	1	1	1	6
都市ガス	小計		9	1	1	-	1	1	1	4
	ガステーブル	本体	5	1	1	-	1	-	1	1
	大型ガスこんろ	本体	1	-	-	-	-	1	-	-
	フライヤー	本体	1	-	-	-	-	-	-	1
	風呂がま	本体	1	-	-	-	-	-	-	1
	食器洗浄機	本体	1	-	-	-	-	-	-	1
プロパンガス	小計		4	1	-	1	-	-	-	2
	大型ガスこんろ	本体	1	-	-	-	-	-	-	1
	ガスこんろ	本体	1	1	-	-	-	-	-	
	ガスおでんこんろ	本体	1	-	-	-	-	-	-	1
	ガスストーブ	本体	1	-	-	-	-	-	-	

○ ガス漏れ火災は13件で、前年（13件）と前年と同件。

○ 都市ガス及びプロパンガスのガス漏れ火災は増減を繰り返し、10件前後を推移。

8 石油設備機器

- 石油設備機器による火災件数は42件発生し、過去10年間で最も多い件数。
- 焼損床面積は667㎡と、過去10年間で4番目に多い面積。

抽出条件：①発火源分類コード 中分類コード「23油を燃料とする道具装置」
 ②経過分類コード「911放火」、「912無意識放火」、「921放火の疑い」、「931火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード「0非該当」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「石油設備機器」の火災とは、石油を燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

ア 年別火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-8-1です。

表 3-8-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	全火災件数	石油設備機器数	全火災件数に対する割合(%)	火災種別								損害状況					
				建物					林野	船舶	航空機	その他	焼損床面積(㎡)	焼損表積(㎡)	損害額(千円)	死者	負傷者
				小計	全勝	半鐘	部分焼	ぼや									
26年	4,804	35	0.7	29	2	1	6	20	-	-	-	6	385	46	81,791	1	25
27年	4,430	36	0.8	31	3	2	3	23	-	-	-	5	294	31	26,423	-	24
28年	3,980	32	0.8	28	2	2	6	18	-	-	1	3	338	51	961,883	-	36
29年	4,204	40	1.0	36	4	-	11	21	-	-	-	4	864	282	92,131	-	33
30年	3,972	38	1.0	33	3	6	4	20	-	-	-	5	660	119	112,714	1	21
元年	4,085	34	0.8	31	4	1	5	21	-	-	-	3	729	144	110,040	3	13
2年	3,693	27	0.7	18	1	1	4	12	-	-	-	9	211	133	46,567	-	21
3年	3,935	31	0.8	23	5	2	3	13	-	-	-	8	737	496	123,840	4	12
4年	3,952	29	0.7	25	1	4	2	18	-	-	-	4	177	119	97,642	-	13
5年	4,329	42	1.0	32	2	2	4	24	1	1	-	8	667	57	117,964	1	27

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

- 火災種別をみると、建物火災が32件(76.2%)で7割以上を占める。
- 延焼拡大率(建物火災件数に占める部分焼以上の火災の割合)は25.0%を占め、前年と比べて5.2ポイント減少。

イ 機器別火災状況

石油設備機器のうち、機器別による火災件数の推移をみたものが図 3-8-1 です。

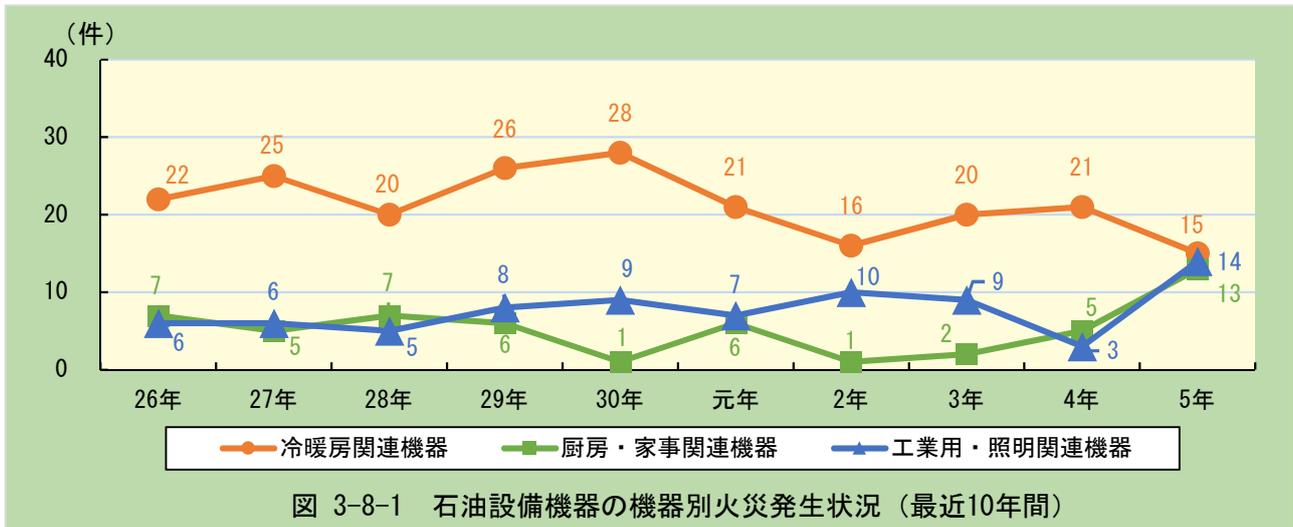


図 3-8-1 石油設備機器の機器別火災発生状況 (最近10年間)

注 放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

ウ 燃料別設備機器火災状況

最近 10 年間の電気、ガス及び石油設備機器別の火災件数を比較したものが図 3-8-2 です。

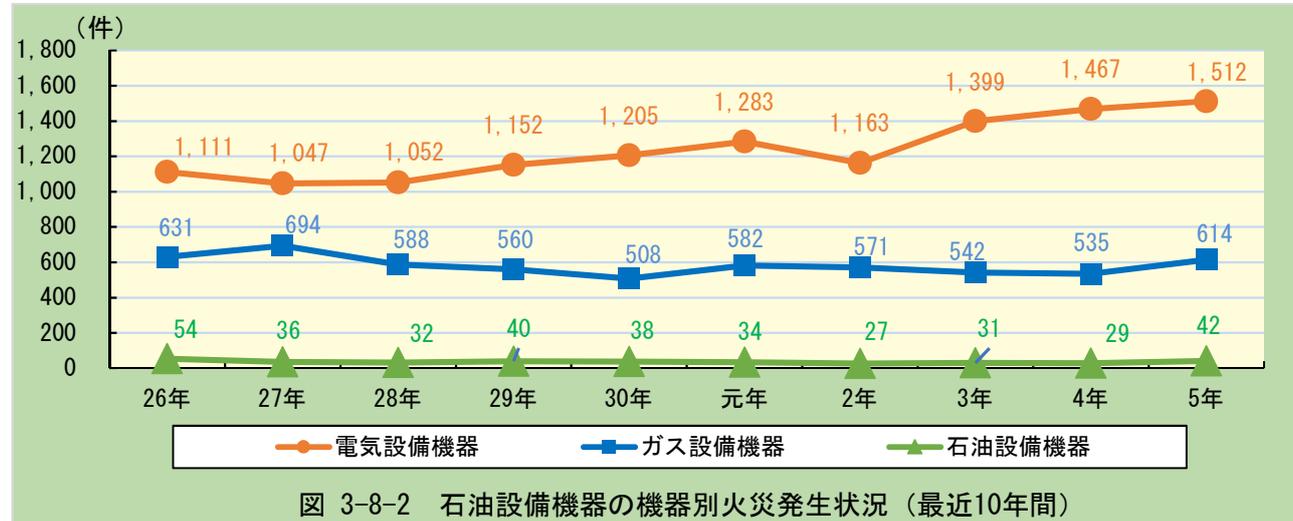


図 3-8-2 石油設備機器の機器別火災発生状況 (最近10年間)

注 放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

- 石油設備機器の機器別火災発生状況をみると、冷暖房関連機器が 15 件 (35.7%) を占める。また、工業用・照明関連機器が 14 件 (33.3%) で最近 10 年間に於いて最多。
- 燃料別にみた設備機器の火災件数をみると、石油設備機器は 13 件増加、電気設備機器は 45 件増加、ガス設備機器は 79 件増加。

(2) 主な出火原因及び出火要因別発生状況

石油設備機器の火災とその発生経過をみたものが表 3-8-2、出火要因別火災状況をみたものが図 3-8-3 です。

表 3-8-2 石油設備機器別の出火に至った経過

発火源	合計	引火する	可燃物が接触する	過熱する	使用中給油する	可燃物が落下する	可燃物を置く	火源が落下する	接炎する	火花が飛ぶ	機械の調整が適切ではない	空たきする	考え違いにより使用を誤る	吹き返す	電線が短絡する	本来の用途以外の用に用いる	不明
合計	42	11	5	5	4	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2
関連機器	小計	15	7	2	-	1	2	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	石油ストーブ	12	4	2	-	1	2	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	石油ファンヒーター	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	代用ストーブ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
関連機器	小計	14	2	1	3	2	-	-	1	1	-	-	-	1	-	1	2
	エンジンカッター	6	1	1	2	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	石油ランプ	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	石油バーナー	2	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	内燃機	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	ボイラー	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	発電機	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
関連機器	小計	13	2	2	2	1	-	2	1	-	-	1	1	-	1	-	-
	アルコールこんろ	7	2	1	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	石油こんろ	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガソリンこんろ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	アルコールランプ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	石油湯沸器	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	風呂がま	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

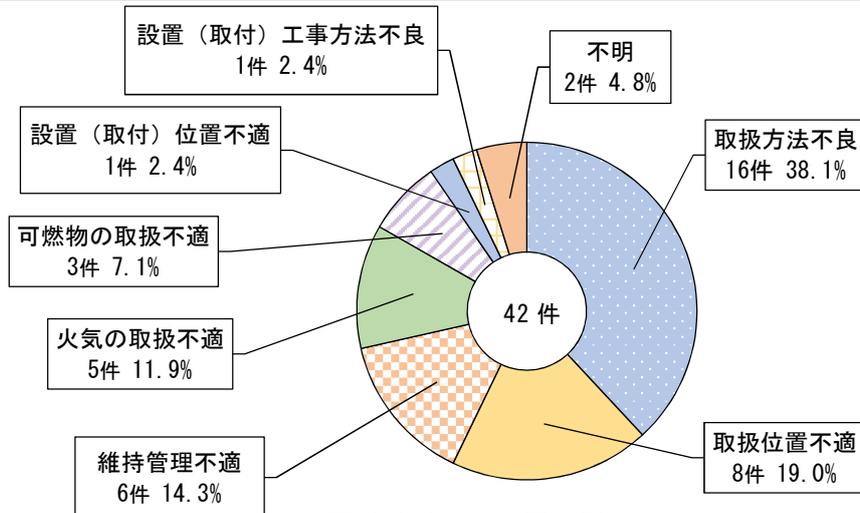


図 3-8-3 出火要因別火災状況

- 石油ストーブの火災は12件(28.5%)で前年(15件)より3件減少しており、石油設備機器の火災の2割以上を占める。
- 出火要因別でみると、「取扱方法不良」が16件(38.1%)発生、次いで「取扱位置不適」が8件(19.0%)発生し、合わせて石油設備機器の5割以上を占める。

9 その他の出火原因

- 花火による火災は5件で、玩具用花火及び煙火で発生。
- 前年と比較すると、いずれも件数は増加。

ここでは、前述した出火原因以外で、火災件数の比較的多いものや、特異な出火原因についてみていきます。

その他の出火原因の火災状況をみたものが表 3-9-1 です。

表 3-9-1 その他の出火原因の火災状況

出火原因	火災の種類別									損害状況				
	合計	建物					林野	その他	車両	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや								
花火	5	1	-	-	-	1	-	4	-	-	-	3	-	1
雷	5	2	-	-	-	2	2	1	-	-	-	317	-	-
再燃	16	11	-	-	2	9	-	5	-	47	80	15,325	-	4
収れん	16	11	-	-	2	9	-	4	1	-	4	3,012	-	-

(1) 花火

抽出条件：①発火源分類コード 「71201 煙火」、「71202 花火」

②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

ここでとりあげる「花火」とは、発火源が煙火及び玩具花火の両方の火災をいいます。

- 火災件数は5件で、前年（3件）と比べて2件増加。
- 負傷者数は1人で、前年（8人）と比べて7人減少。

(2) 雷

抽出条件：経過分類コード 「841 落雷する」

- 火災件数は5件で、前年と比べて2件増加。
- 直接雷*によるものが3件（60.0%）、間接雷*によるもの2件（40.0%）。
- 月別発生状況をみると、7月に2件発生。

(3) 再燃

抽出条件：経過分類コード 「321 消したはずのものが再燃する」

ここでとりあげる「再燃」とは、行為者が火災に対して消火行為を行い、消火できたと思われたものの、火種が残っていたため数時間後に再び燃え出して火災となったものをいいます。

再燃前の火災の消火方法と再燃物品をみたものが表 3-9-2 です。

表 3-9-2 再燃前の消火方法と再燃物品

再燃前の火災の消火方法	合計	再燃物品		
		寝具類	消したはずの繊維・製品	その他
合計	16	7	4	5
やかん・ポット等の水をかけた	4	3	-	1
コップ・湯のみ等の水をかけた	3	1	-	2
鍋・ボール等の水をかけた	2	1	-	1
踏み消した	2	1	1	-
直接水道の水をかけた	2	-	1	1
その他	3	1	2	-

- 火災件数は16件で、前年と比べて3件増加。
- 再燃前の火災の発火源をみると、たばこによるものが7件(43.8%)と最も多く発生。
- 再燃物品は、寝具類が7件(43.8%)で4割以上を占める。

(4) 収れん

抽出条件：経過分類コード 「991 収れんする」

収れんとは、太陽からの光が何らかの物体により反射又は屈折し、これが1点に集まることをいいます。反射又は屈折により太陽光が1点に集中した場所に可燃物があると、火災となる場合があります。

- 火災件数は16件で、前年と比べて10件増加。
- 発火源をみると、凸レンズが10件、凹面鏡が5件、反射板が1件。